

令和7年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和6年度		
事業番号	8	事業名	学生まちづくり活動支援事業		担当課		観光商工課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		2-1-9-7 大学連携事業		
			(中事業名) 大学連携事業		決算書ページ		70	～	一般
I 基本情報	総合計画	基本目標	1	「やってみたい」でつながるまち					
		政策	2	「やってみたい」が実現できる仕組みづくり					
		施策	(2)	若者の想いを支える仕組みづくり					
	その他	開始年度	平成20年度						
		終了予定年度	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 未定	市民・民間事業者との連携協働の可能性		両者と協働可		
		根拠法令等							
		関連計画	大学連携調整会議設置要綱、大学連携推進ビジョン4U						
	事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)			
		【対象】 <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input checked="" type="checkbox"/> 事業者 <input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> その他 対象の数： 約60,000人		【アクションプラン指標】 大学連携事業実施件数 【その他の指標】		大学との協働が地域資源として 認識され、連携・活用の機会が 増える。 (成果指標名) 大学連携事業への参加延べ人数		④最終成果 (大事業の将来像)	
		【事業内容】 市内4大学および周辺大学と連 携し、大学の持つ知的財産や人 材、学生の持つ若い力を生かす ための仕組みづくりに取り組 み、学生のまちづくり活動を支 援します。						大 事 業 共 通 日常的に大学や大学生がまちに 出てまちづくりに関わること で、地域の活力が向上すると ともに市のイメージ向上に寄与 する。	

Ⅱ 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名		単位	基準値（2023年） 目標値（2028年） ※AP指標のみ		区分	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	R10(2028) 年度	
		1	【アクションプラン指標】 大学連携事業実施件数【単年】	件	基準値	45	目標値	40	45	45	45	45	
					目標値	45	実績	34					
		2			基準値		目標値						
					目標値		実績						
		3			基準値		目標値						
					目標値		実績						
		4			基準値		目標値						
					目標値		実績						
	エピソード	事業開始の背景	市内4大学と締結した包括的連携協定や大学連携推進ビジョン4Uに基づき、市、大学間との連携を推進するため、長久手市大学連携調整会議を設置し、併せて市内4大学によるワーキングを実施している。										
		各年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
		R6	・市内4大学に一律額の委託契約にて実施してきた4Uワーキングについて、4大学の足並みをそろえた事業実施が難しくなってきたこと及び、地域での学生の活動の幅を広げ、より活動しやすい形にするため、協働まちづくり活動補助金の活用に切り替えた。その結果、4Uワーキング分の件数が減少した。 ・8月5日に名古屋学芸大学と包括連携協定を締結した。				R7						
		R8					R9						

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）

成果指標（CHECK）

成果指標名（中間成果をはかるもの）		単位	成果指標の推移と目標									
大学連携事業への参加延べ人数		人	R2 年度	▶	R4 年度	▶	【現状】 R6 年度	▶	R8 年度	▶	R11 年度	
			1,625		7,394		13,500		8,000		8,000	
成果達成状況						指標目標値の根拠						
B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている						毎年、庁内各課に調査している大学連携事業報告シートより。大学との連携事業は継続して行われているため、同水準で設定した。なお、令和6年度は大学連携事業を大規模イベントと同時開催し、10000人を超える参加人数が実績として計上されているものがあるため、その分は下方修正した。					
	評価の理由、分析											
	各課において大学との連携事業を実施している。名古屋学芸大学と包括連携協定を締結したことから、同大学との連携事業の増加が見込まれる。											

加える変化（ACTION）

今後の方向性		今後の方向性の理由										
B	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止		本市や地域の抱える課題を解決するため、大学と連携し、大学の得意分野や専門分野を把握し、その知識や技術、人材を課題の解決や市民サービスの向上につなげる。									
	改善ポイント (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)											
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度	
1	連携する大学の拡大	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	令和7年度は愛知学院大学との包括連携協定を結ぶ予定である。このことを契機に、大学連携事業のメニューの幅を広げることができる。								R7	
2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止										
3		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止										

IV 費用	令和8年度予算の方向性（PLAN）	R8年度の費用（R7年度比）		3年間の推移	(単位：千円)	R5(2023)年度		R6(2024)年度		R7(2025)年度		
		B	A. 拡充 B. 現状維持		事業費	予算	決算	予算	決算	予算		
			C. 縮小 D. 廃止			12	4	10	8	10		
		理由			特定財源	合計額	0	0	0	0	0	
		地域の課題を解決していくためには大学がもつ人材や知的財産を活かす必要があるため、引き続き事業を実施していく。				(内 国費)	0	0	0	0		
						(内 県費)	0	0	0	0		
						(内 諸収入)	0	0	0	0		
						(内 その他)	0	0	0	0		
		積算額			一般財源	12	4	10	8	10		
		消耗品費 10千円			R7年度予算の内訳 ＜細々節名、 予算額、（R6年度予算額）＞							
			消耗品費 10千円（10千円）									